



想像力を刺激する言葉で、「いま」を伝える番組を。

写真ではなくDJの道へ

写真家の父親の影響からか、「将来の夢はカメラマン！」と周りに宣言する幼稚園児でした。夢が叶って、京都市内の写真スタジオで3〜4年アシスタントを経験したのですが、「間近で舞台裏を見ると、カメラマンって本当に大変そうだなあ」とつくづく感じましたね。ちょうどそのころ、以前にパンクバンドでヴォーカルを担当していたことから、「歌と同じ、声を使う仕事もおもしろそうだ」と軽い気持ちでボイスプロダクションの養成所にも通っていたんです。写真とボイスレッスンをこなすうちに、幸運にもQ-STATIONでお仕事をさせてもらえるようになり今年で10年。国語の授業での本読みや音楽の時間に歌うことが嫌いだっただ小学生の僕が知ったら驚

番組づくりは想像と刺激がいっぱい

いつでも番組中は、心地よさを大切にしています。大層じゃなく、気楽に、ニュースやトピックスを伝えていきたい。好奇心をくすぐるように、できるだけたくさん、トピックスを解りやすくコンパクトに紹介するように心がけていますね。すべてを事細かに説明するのではなく、7〜8割くらいを話して、残りは想

像してもらって。その想像こそ、ラジオの醍醐味であり魅力。それぞれのイマジネーションの中で遊んでもらえたらうれしいですね。

正しい日本語の使い方や、美しい日本語表現など、言葉の難しさを日々感じながらも、日常生活の「いま」の空気を伝えたい。そのために、ふたりの番組ディレクターと打ち合わせをして、どういう見方があるのか、どう伝えればいいのか、突き詰めていきます。それぞれの視点や捉え方があって、3人での番組づくりは刺激的ですね。

音楽に関係することを積極的に

僕のパンク好きを知る人は、実際に会うとイメージが違ふことが多いように（笑）。ときどき「パンクですわね」と言われますが、「パンクじゃないんですよ、ただのパンク好きなんです（笑）」と答えます。

なぜパンクが好きなのか。それは「DI-Y」の精神があるから。なんでも自分でやる。やるつととする。志。なものにも流されない強い意志と自由な感性。サウンド・メッセージともに独自のスタイルを生み出していく強さ。それらは自分にならないものだからこそ、憧れているのかもしれない。

パンクはもちろん、音楽は僕にとつて欠かせないもの。音楽に関係する仕事は、これからも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

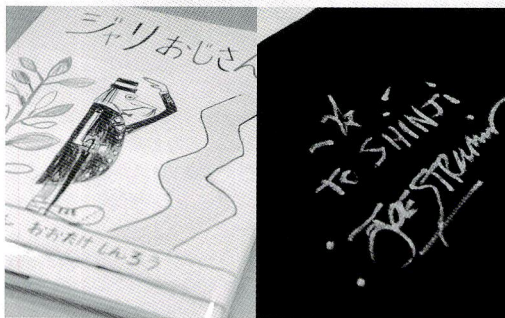
音楽に関わることと言えば…実は、前回登場したしもぐちさんと谷口さんがユニットを組んだCDのジャケット撮影を担当したのは僕なんです。これも面白い縁ですね。カメラもバンドもDJである僕の武器のひとつ。それらを大切にしながら、今後はもっと声を持つイメージの幅を広げていきたい。声に表情が出るような語りができるようになりたいと思っています。



三嶋真路
MISHIMA SHINJI

京都生まれ、滋賀育ち。取材日当日(9月29日)が誕生日で40歳を迎えた。写真スタジオでアシスタントをしながら、ヴォイストレーニングの養成所へ通い、Q-STATIONでDJデビューを果たす。バンド経験(ヴォーカル担当)もあり、パンク通としても知られる。

MISHIMA SHINJI



DJ's Favorite Item

「ポアダムズ」のボーカル・ヤマタカEYEと結成したユニット「バズルボックス」のCDブックを入口に、大竹伸朗を知る。「ジャリおじさん」(福音館刊)のアバンギャルドな世界に衝撃を受け、その自由度の高さに憧れる。憧れと言えば、永遠のアイドル「クラッシュ」のヴォーカリスト、ジョー・ストラマー。'01年、大阪で行われたライブでサインをもらったTシャツは宝物。



MOVING FILE

毎週土曜 19:00~22:00

DJ: 三嶋真路

世界、日本で起こった様々な動きをコンパクトにわかりやすくかみ砕いてお届けするMOVING FILE。今週のニュースの中から野に咲く一輪の花、もしくは知ったからといって、明日からの生活に何の影響も及ぼさないラテン系ニュースを集めたニュースファイル「テキーラ・エクスプレス」のコーナーは、小ネタ好き必聴です。